

ニアボール・競技規定

1. 競技方法

- ・個人戦とする。
- ・各選手は、1球を自球として所有できる。
- ・選手は、スティックのフェイス部分で打撃し、球に1度の衝撃を与えて自球を移動させることができる。これによって3m離れた目標のターゲット球に近づける。
- ・打撃によって移動した球との接触によってターゲット球が移動した場合、自球とターゲット球が静止した場所で球同士の内側最近距離を測定する。(1cm以下は切り上げとする) ※参照：10. 記録方法

「床上競技」 ※参照：9. コート図

- ・床上競技の場合、コートを1/100に縮小して競技を行うことができる。
- ・床上競技では、球の代わりに20mm以下のおはじき等を使用しこれを弾くなどして打撃できる。ただし打球エリア外で球に触れることはできない。
- ・床上競技での記録測定は、mm単位で測定し、ターゲット球までの距離を300mmにして1mm以下は切り上げとする。

2. 成績

- ・自球を1打撃によってターゲット球に近づけられた者が上位となる。
- ・成績は、通常コートと床上コートの記録を整合して勝敗を決定する。(/ 300として合わせる)
- ・全参加選手の距離をランキングにし、上位3名を表彰する。

[タイブレイク]

- ・同距離だった場合、対象選手は再度1球ずつ打撃し、これを勝敗が決定するまで繰り返す。
- ・打撃ができなかった場合や記録がない場合は、不戦敗となり下位となる。
- ・最大4回まで行い、勝敗が決定できなかった時は引き分けとする。
- ・事前に、予備記録として記録用紙に記録することができる。

3. アウト

- ・打撃により、球が競技ラインの外側に完全に出てしまったことをアウトと呼ぶ。
(球がコートの外側に出てラインと接していない場合にアウトとする)
- ・アウトになった選手の記録は、300cm(床上コートでは300mm)とする。

5. ペナルティ

☆記録とはせずに次回の成績に30cm(床上競技では30mm)を加算する。

- ・審判のコール前に打撃した場合。
- ・1ストローク打撃で2度以上の衝撃を与えた場合。(押し打ちも含める。)
- ・打撃中に、身体の一部が球に触れた場合。
- ・試合中に遅延行為があった場合は主審が注意を与え、その後10秒以上打撃を行わなかった場合。
- ・審判のコール後に、発言や物音をたてて他の選手の打撃に支障をきたす行為を行った場合。
(影響を受けた他の選手は打撃のやり直しができる)

☆明らかに故意と思われる妨害や、悪質で試合の進行を妨げる行為など、スポーツマンらしくないプレーをした選手に対して、主審の判断でペナルティの罰則や適当数の加算を行う。

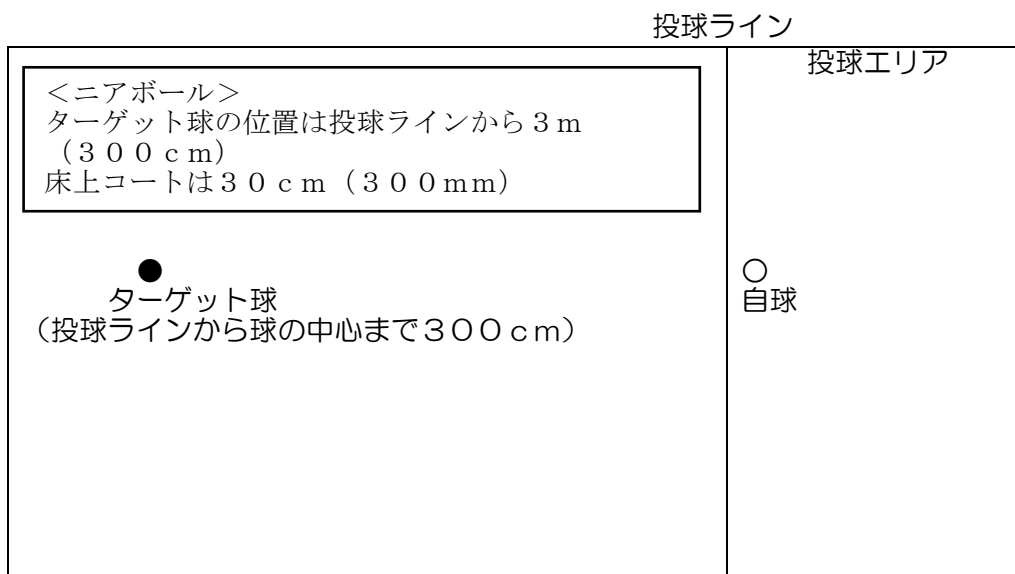
6. 記録会

- ・選手は300cm離れた所から1球を1打撃し、ターゲット球との距離をcm単位で測定する。1cm以下は切り上げとする。
- ・床上競技では、ターゲット球までの距離を300mmにしてmm単位で測定し、1mm以下は切り上げとする。
- ・記録会は各自1回のみとする。

8. その他

- ・主審は、競技規則に従って競技を主催し、競技規則に明示されていない競技上の問題等を決定する権限を持つ。また、審議が必要な場合は、競技を一時止める事ができる。
- ・試合前に主審に申請し主審が認めれば、選手の実態に応じて補助具の使用を認める事ができる。
- ・コートが悪条件により、プレーに支障があると審判が認めた時は、修復できる。
- ・審判の判定に対して過ちがあった時は、審判は訂正できる。また、選手からの抗議はその場ですぐにタイムを要請し、審判に対して選手が1件に対して1回抗議する事ができる。

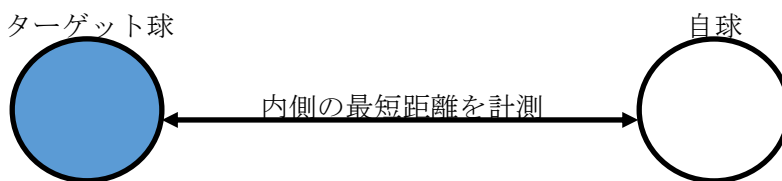
9. コート図



※ターゲット球は300cm（床上コートは300mm）の地点にあるクロス上に設置する。

10. 記録方法

※球が静止した場所の内側を計測する。



- (例1) 2球が接触している場合の記録は、[0]
- (例2) 0.5cmの場合の記録は、[1] (1cm以下の場合、切り上げた記録となる)
- (例3) 床上競技の場合は、1mm以下の記録は切り上げて記録は[1]となる。
- (例4) ターゲット球に接触した時にターゲット球が移動した場合、2球が制止した場所で計測する。

令和3年9月17日施行